



工務店ミライ塾 ◎2023

新築
THE SHINKEN HOUSING



ちょっと詳しく聞かせてほしい!

問い合わせるには気が引ける、でも申込前には知っておきたいこと、お答えします！

ごあいさつ

2020年11月から4期連続で満員御礼をいただいている「工務店設計塾」の第5期。塾長は人気建築家のアイプラスアイ設計事務所 代表・飯塚豊氏。今までセンスや感覚でしか語られなかった住宅設計手法を論理体系化する「飯塚メソッド」を土台に、各回①講義②演習③添削・講評を積み重ね、全6回シリーズで木造住宅設計の基本から応用までを存分に学びます。前回に続き丸山弾-スタジオ 代表の丸山弾氏をゲスト講師に迎え、提出プラン講評も充実。全国の多彩な設計者がオンラインで集まり、半年間共に学ぶことで自分の伸びしろに気づき、スキルを高め合える場としても好評いただいております。この機会にぜひご体感ください。

contents

- 03 ちょっと詳しく聞かせてほしい！
- 04 この人に学ぶ 歩みと哲学。
- 06 WORKS 飯塚豊氏の作品紹介
- 12 Student FILEs 01 あすなろ建築工房
- 14 Student FILEs 02 ニコハウス設計室
- 16 特別講師紹介／プラスワン講師紹介
- 17 工務店設計塾の詳細内容

Q なぜ設計経験に関わらず参加できる？

「大学で実践している
「学生が一番成長する」
実績あるスキーム」

「間取りから考えない」「真似をすることから始めなさい」。飯塚さんが2011年から法政大学で務めている講師の経験で、「間取りから考えない」というひとつの気づきと「真似をすることから始める」ことで、たとえ初心者でも破綻しない設計をすることができるようになるスキームがあるからです。[この人に学ぶ 歩みと哲学。P04](#)

- ① 基本的な考え方と知識を習得
- ② 課題をクリアするプランを提出
- ③ 塾長による提出プランの講評

Q 具体的にどんな方法で
設計力を洗練できる？

基本的な考え方と知識を身に付け(①)、具体的な課題からプランを作成(②)、講師の丸山氏のふたりの建築家からの講評(③)を通し、自身の強みや足りない部分の発見、より良くなるためのアドバイスにより、これらを半年間(全6回)積み重ねることで、実践に則して成長することができます。

[この人に学ぶ 歩みと哲学。P04](#) [Student FILEs P14・16](#)

Q 大人数で受講するメリットは？

全員のプランから学ぶ
プラン×人数×回数＝？

大人数で受講することの価値を最大に発揮するのは、2日目のプランのプレゼン・講評だ。提出するプランは十人十色のさまざまなアイデアや工夫が凝らされています。受講者(プランの数)が多いほど、学びの数が増えていきます。また、同じ志を持った仲間と学ぶことで切磋琢磨することで、ひとりで学んだ時よりもきっと高みを目指せるはずです。

[Student FILEs P14・16](#)

Q チームで参加できるって
本当ですか？

共通言語を持つなど
メリットが多い

同じ会社※であれば、複数で参加することができます。普段複数人のチームで設計を担当している方は、チームでの受講をおすすめします。そのことで、共通言語を持つことでメンバー同士が思考を理解・想像しやすく、スムーズな業務進行が期待できます。[Student FILEs P14・16](#)

※課題プランの提出・講評は毎回1社1名様のみとなります。



歩みと哲学。

この人に学ぶ

本塾の塾長で講師の飯塚豊さんに建築の世界での歩みと、建築の哲学、本塾への思いをお聞きしました。

塾長・講師 飯塚 豊

アイプラスアイ設計事務所 代表
一級建築士・省エネ建築診断士（PHJ）

1966年東京都生まれ。1990年早稲田大学理工学部建築学科卒業。1990～2003年大高建築設計事務所に在籍。2004年i+I設計事務所を設立。2011年法政大学デザイン工学部兼任講師に就任。間取りの考え方だけでなく、建築構造、断熱・通気設計など木造住宅の設計に欠かせない実務上のノウハウを指導している。著書に『間取りの方程式』『新米建築士の教科書』『ぜんぶ絵でわかる1木造住宅』がある。

建築の道にすすんだ経緯

私の祖父は工務店を興した大工。叔父や父兄弟が引き継ぎ、小さな注文住宅の工事と建設会社の下請工事を手掛ける零細工務店になった。父は現場監督兼大工の仕事をしていた。自宅の一部が事務所で、職人さんが常時出入りしていた。加工場も近くにあり、親もいろいろなものを作ってくれた。その環境で、何か作ること、描くこと、ものづくりの楽しさを自然と学んだ。

ただ工務店は零細であり、喧嘩も絶えず、建築の世界には良いイメージがなかった。兄や私は父の仕事を引き継ぐつもりはなく、父もそれを望んでいなかつたため、将来の道を自由に考えていました。

私が建築を目指したきっかけは大学受験。理工系の学部を受験したが、早稲田大学の建築学科に「デッサン」があり、配点が高かった。絵が得意だったため、建築学科を受験し、合格した。

新卒の就職先は、メタボリズムの建

築家、大高正人の設計事務所。大手ゼネコンの設計部からも内定をもらっていたが、自分の可能性を試したいと思い、あえて設計事務所の道を選んだ。

大高氏の事務所は主に都市計画や大型の公共建築を主力に手掛けていたため、住宅も木造も一切やらない。そんな事務所で13年修業した。建築の魅力や楽しさに気づいたのも、建築を芸術の側面からだけでなく、技術の側面から考える「テクニカルアプローチ」を身に付けたのも、その時だ。

時代は公共建築の仕事が難しくなっていた。コンペやプロポーザルで選ばれなければ仕事を取れず、設計料のダンピングも起きていた。その頃、両親の家を設計し、初めて木造の建物に取り組んだ。その経験から木造に興味が湧き、木造住宅を手掛けたいと思うようになった。

また、当時はインターネット黎明期。「個人住宅をネット経由で受注する」という新しい形態もありうると考えて独立

した。

試行錯誤から生まれたメソッド

修業時代の事務所では木造も住宅も一切やっていなかったので、当然私自身も木造を知らない。木造住宅のつくり方（設計法）を自分で発明するしかなかった。どうやったらうまく設計できるか、もっと合理的な方法で設計するにはどうしたらいいか、を常に考えてきた。

設計事務所時代に身につけたルールから木造住宅の世界をみると、最初はその設計の進め方が非常に特殊である意味奇妙に映った。

大きな違和感は、建主の要望を聞いて、そのままつくること。さらに、間取りと矩計図だけで家をつくってしまうことにも違和感を持った。

簡単にいえば、個々のプロジェクトがその場しのぎの間に合わせの産物になっていて、建築の醍醐味である「芸術と技術を融合させる」過程がないように見えた。現代の街並みがこんなに崩れてしまっている、ということもこれで納得ができた。技術的にもまだ吟味追求されていないところがあるように見え、それを追求して示していくことは自分が一定の役割を果たせ、居場所があると思った。

転機になったのは2011年。法政大学の講師を務めるようになったこと。きっかけは大学同期で網野禎昭氏がウィーン工科大学から日本に戻って法政大学教授に就かれるにあたり、木造住宅の基礎を一緒に教えてほしいと依頼を受けたのも、その時だ。

私の講座は学部2年生の必修授業で、大学4年間のなかで木造住宅について学ぶ唯一の講座。学生は1年間全14回で木造住宅建築をゼロから初めて、軸組模型をつくり、最後には矩計図・軸組図までを完成させる。矩計図は、構造はもちろん断熱・気密・通気まで全て検討されたもの。実際にそのまま建てられる図面が完成する。他大学の建築学科ではいまだに木造を学べないことを考え

れば、学生達にとって貴重な経験になると自負している。

この講座も最初から完璧だったのでなく、当初は試行錯誤の連続だった。間取りから考えると急に設計が硬くなる。平面図を立ち上げるだけではフラットルーフの箱にしかならない。かろうじてできた空間も全く魅力的でない、架構も合理的でなく、環境にもそぐわない。まずはそれをやめようと思った。

学生を教える中で自分でも大きな気づきになったのは「間取りから考えない」ということ。形をつくるときは、平面を立ち上げるのでなく、むしろ断面を押し出すほうがいい。このことに気づき、授業でも実践したら非常にうまく行った。本の中では「トコロテン方式」として紹介しているが、造形やボリュームから建築を考えることが決め手だ。

さらに学生には、必ず真似することから始めなさい、と伝えている。学生はみんな自分の頭でパズルのように解くのが大好きだが、初心者が設計すると、考えがまとまらず破綻してしまうか、つまらない単調なものになってしまいがちだ。普段からいい建築に触れて、いい空間を体感する。その上で、実際設計する際は、その図面を脇に置きながらプランを書くように指導する。

それまでの自分の経歴と、大学で学生を教える経験をもとに、自分なりの間取り本としてまとめたのが、「間取りの方程式」（2014年、エクスナレッジ刊）。タイトルは「間取り」とあるが、実は間取

りに関する触れているのはごく一部で、それ以外のほとんどを建築フォルムのつくり方に充てている。動線計画をどれだけ工夫しても、良い間取りにはならない。最終的にいい形の間取りを作るためには、いい形の検討が先に必要だ、という気づきをこの本に込めた。

また設計という行為はいきなり方眼紙に向かうのではなく、その前段に必ず入念な調査が必要だ。この過程をきちんと踏まないと、良い設計、意味のある図面にならない。その思いから「新米建築士の教科書」（2017年、秀和システム刊）では現地調査、役所ヒヤリング、上司相談などを含めて書いた。

「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」（2022年、エクスナレッジ刊）は、法政大学の学生向けに作成・配布した1年分の資料を一冊にまとめたもの。前提知識ゼロの大学2年生にもわかりやすく、それでいて実務者でも意外に知らない、木造住宅の最前線を盛り込んでいる。

工務店躍進のカギは「設計力」

ウッドショック以降、注文住宅の工事費が急激に上がっている。価格高騰のなかでは、間接費を圧縮できる小規模なつくり手が有利になる。また現在のように世帯構成やライフスタイルが多様化している中で、それらに個別対応するには、小規模な工務店に強みがある。

一方でこうした工務店のボトルネックとなっているのが設計力。一般顧客から見ると地域工務店よりハウスメー

ラーの設計が優れている、という認識があるようだ。そういう評価を変えていかなければいけない。

「某建築家が設計した企画型住宅」を採用する方法もあるが、おそらくそれは長続きしない。長い目で見れば、地道に自社の設計力を上げていくのが一番有効ではないか。工務店は設計力次第で、一気に他社と差別化できるようになる。

ではどのように設計力を磨くか。私のこれまでの経験からいえることは、早い段階で木造住宅の設計方法のスタンダードを学び、土台をつくること。我流の設計では、単に性能の良い住宅や建築主の御用聞き住宅は設計できても、魅力的な住宅は絶対に設計できない、というのが持論だ。

今まででは木造住宅の設計方法を体系的に学べる場がなかった。木造専門の設計事務所に入所して5年～10年働かないと身につけられないと考えられてきた木造住宅を「工務店設計塾」で半年間で学べることの意義は大きい。

この塾で提唱する設計順序や設計のセオリーは非常に具体的かつ単純だ。その実践には経験もセンスも必要ない。環境を読み解き、手順を順番にこなしていくだけである。だから本当の初心者が参加しても大体数回で勘所を掴み、1回目と6回目で提出するプランは驚くほど変わる。ベテラン設計者は、長年の我流で染み付いた悪い癖を正される。本当に大事なポイントがわかるので、プレずにやるべきことが明確になり、それによって自分のアイデアを表現する余裕ができる。本塾での学びを日々の設計で繰り返すだけで、新規顧客に訴求する、「魅力的な住宅」が設計できるようになる。

本塾で基礎を学べば、機能、性能を満足した上で、その先にある、環境との一体化や空間の魅力を表現できるようになる。住宅だけにとらわれない「建築」という大きな枠組みで勝負ができる住宅設計者のために、最初の種まきをすることが自分の使命だと思っている。

「建築」という大きな枠組みで勝負できる住宅設計者を育てたい

りに関して触れているのはごく一部で、それ以外のほとんどを建築フォルムのつくり方に充てている。動線計画をどれだけ工夫しても、良い間取りにはならない。最終的にいい形の間取りを作るためには、いい形の検討が先に必要だ、とい

う気づきをこの本に込めた。

また設計という行為はいきなり方眼紙に向かうのではなく、その前段に必ず入念な調査が必要だ。この過程をきちんと踏まないと、良い設計、意味のある図面にならない。その思いから「新米建築士の教科書」（2017年、秀和システム刊）では現地調査、役所ヒヤリング、上司相談などを含めて書いた。

「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」（2022年、エクスナレッジ刊）は、法政大学の学生向けに作成・配布した1年分の資料を一冊にまとめたもの。前提知識ゼロの大学2年生にもわかりやすく、それでいて実務者でも意外に知らない、木造住宅の最前線を盛り込んでいる。

工務店躍進のカギは「設計力」

ウッドショック以降、注文住宅の工事費が急激に上がっている。価格高騰のなかでは、間接費を圧縮できる小規模なつくり手が有利になる。また現在のように世帯構成やライフスタイルが多様化している中で、それらに個別対応するには、小規模な工務店に強みがある。

一方でこうした工務店のボトルネックとなっているのが設計力。一般顧客から見ると地域工務店よりハウスメー

ラーの設計が優れている、という認識があるようだ。そういう評価を変えていかなければいけない。

「某建築家が設計した企画型住宅」を採用する方法もあるが、おそらくそれは長続きしない。長い目で見れば、地道に自社の設計力を上げていくのが一番有効ではないか。工務店は設計力次第で、一気に他社と差別化できるようになる。

ではどのように設計力を磨くか。私のこれまでの経験からいえることは、早い段階で木造住宅の設計方法のスタンダードを学び、土台をつくること。我流の設計では、単に性能の良い住宅や建築主の御用聞き住宅は設計できても、魅力的な住宅は絶対に設計できない、というのが持論だ。

今まででは木造住宅の設計方法を体系的に学べる場がなかった。木造専門の設計事務所に入所して5年～10年働かないと身につけられないと考えられてきた木造住宅を「工務店設計塾」で半年間で学べることの意義は大きい。

この塾で提唱する設計順序や設計のセオリーは非常に具体的かつ単純だ。その実践には経験もセンスも必要ない。環境を読み解き、手順を順番にこなしていくだけである。だから本当の初心者が参加しても大体数回で勘所を掴み、1回目と6回目で提出するプランは驚くほど変わる。ベテラン設計者は、長年の我流で染み付いた悪い癖を正される。本当に大事なポイントがわかるので、プレずにやるべきことが明確になり、それによって自分のアイデアを表現する余裕ができる。本塾での学びを日々の設計で繰り返すだけで、新規顧客に訴求する、「魅力的な住宅」が設計できるようになる。

本塾で基礎を学べば、機能、性能を満足した上で、その先にある、環境との一体化や空間の魅力を表現できるようになる。住宅だけにとらわれない「建築」という大きな枠組みで勝負ができる住宅設計者のために、最初の種まきをすることが自分の使命だと思っている。



WORKS_01 津市 YSK邸

1 森大建地産（三重県津市）とのコラボ。くちばしのように尖った大屋根をもつ住宅。許容応力度設計耐震等級3、HEAT20/G3はもちろん、ドイツパッシブハウス基準にも適合する。外構は荻野寿也さん 2 東側外観。軒の低い藁葺の古民家のようなボリューム感をもたせた



2

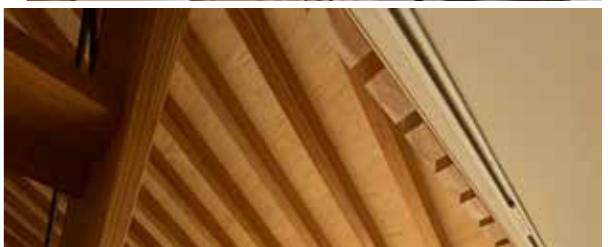


3

5



4



1



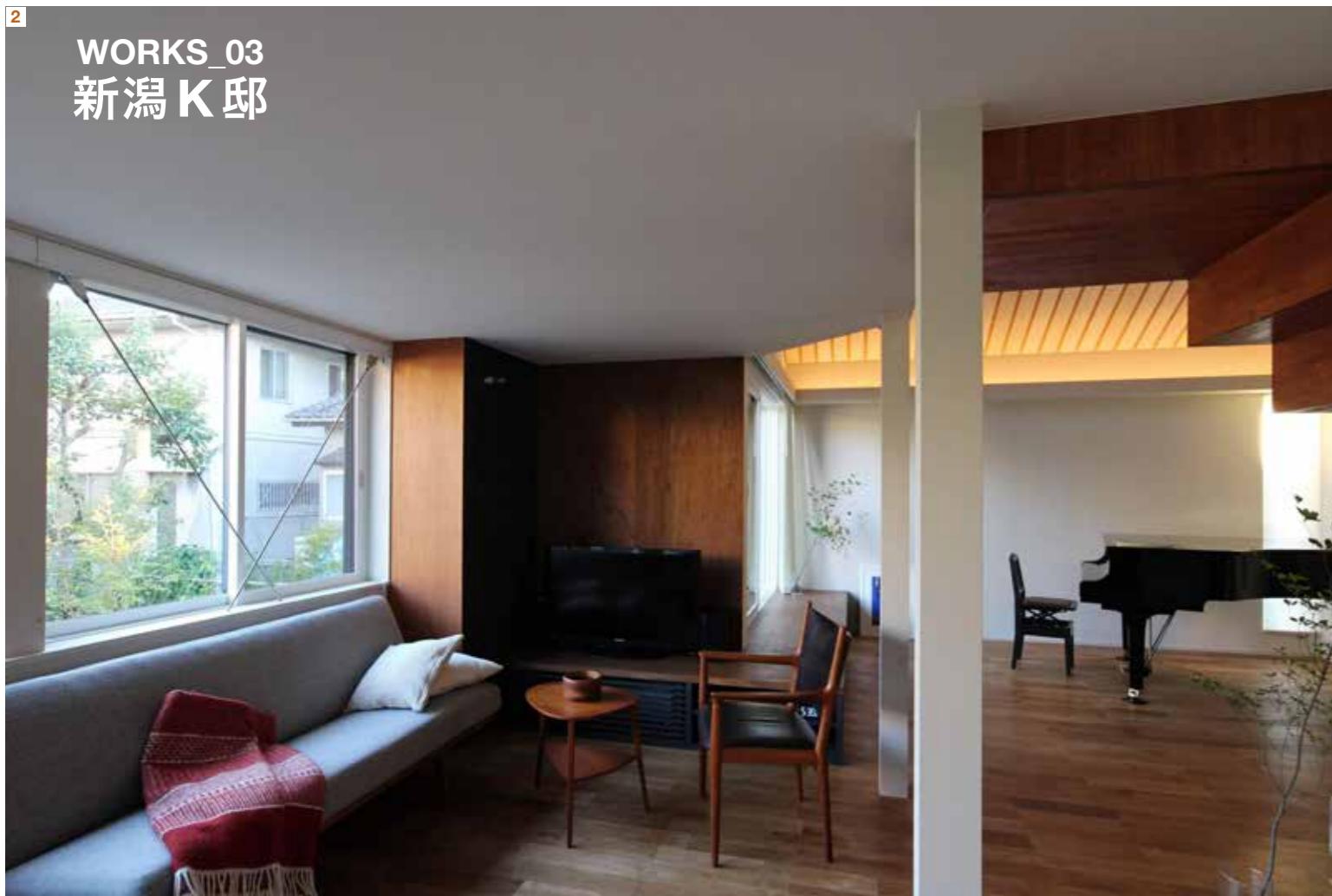
3 LD。ワンルームの室内にリビングピットで居場所をつくる
4 LD。断熱は外張りで構造体を露出させている
5 LD。窓はすべて三重県産材を使ったスマートワイン



1 オーガニックスタジオ新潟(新潟県新潟市)とのコラボ第2弾。グランドピアノのある居間を中心とする高性能住宅。第4回「日本エコハウス大賞」グランプリ受賞作
2 リビング。壁際に人の居場所が連続するよう、腰壁やベンチを設けた



1
2
WORKS_03
新潟 K邸



3 トップライト。屋根最頂部に設けて、上方の抜けをつくる
4 寝室。開口を絞り、印象的な光を導入している
5 ピアノ室。すのこ状の天井は、音の拡散と吸音を狙ったもの



6 キッチン。ダイニングのレイアウトが自由になる壁向きキッチン
7 大階段の中間領域。奥行きをたっぷり取って居場所になるように



Student FILES 01

過去の受講者の方から受講の感想や修了後の変化などをお聞きする「Student FILES」。参加申込の検討材料はもちろん、終了後の実務への落し込みなどをご紹介します。



丘の上の家。配置的に表になってしまふ物干し場をルーバーで隠し、窓配置と共に外観デザインを整理した



一步先の洗練求め、設計チーム全員で

お話を聞きした方

代表取締役 関尾 英隆さん／設計担当 浅倉 瞳さん

●あすなろ建築工房(神奈川県横浜市)

設立:2009年 社員:18人 年間棟数:新築12棟、リノベ1~2棟

関尾英隆氏が日建設計に10年間勤務した後、住宅建築への憧れから2005年に工務店に転職。3年間の修業を経て、自らの一級建築士事務所を開設後、2009年に設計事務所機能に工務店機能を融合する形で、あすなろ建築工房(神奈川県横浜市)を設立。

「チーム設計」を採用するなど、独自の取り組みをしてきましたね

関尾さん 新卒から10年間、組織系設計事務所の日建設計に勤務した経験が、自分の原点です。この組織は1つのプロジェクトに意匠、設備、構造、法規、工務、プレゼンテーション、監理などの各部署のメンバー十数人が関わり、一式の設計図書を完成させます。各メンバーは1人1人がそれぞれ個性を持ちながら、チーム全体としては確固たる品質をもち、「さすが日建設計」と評価される個々

人では到達できない、チームの力を発揮できる。これを地域工務店でも実装したい、というのが独立以来の構想でした。

このため弊社では現在、社員18名のうち設計担当として6名が在籍しており、チーム設計を採用しています。初回プレゼンの際は、必ず設計6名全員でコンペを行い、顧客に最適なプランを選ぶ。たとえ採用されないプランでも、各スタッフの多様なアイデアを部分的に取り入れることで、提案に深みを与え、説得力のあるプランを提示できるのが強みです。

塾に参加された経緯を教えてください

関尾さん 一つは設計チームの強化ですね。本来「チーム設計」のしくみが真価を発揮するには、1つのテーマに対して各メンバーが多様なアイデアを確保できる状態が必要です。これまで10年以上チーム設計を続ける中で、ここ最近、顧客に提案する基本プランが過去物件の焼き直しのようにどこか似通つてしまい、メンバーの発想が硬直化しつつあると感じていたときに、塾の告知を

みて決めました。

もう一つは塾長の飯塚豊さんに学んでみたいという興味。もともと飯塚さんの本や講義は聞いたことがあり、これまで私が日建設計の先輩などから断片的に教えてきたことや、自分の頭の中でぼんやり考えて実践してきたことを、きちんと言語化され、体系化されているのを見て、これはすごい、と感じた。この体系をメンバーが身につけることでチームの共通言語を持ち、一步先を目指せるのではないかと期待しました。

設計チーム6人での参加はいかがでしたか？

浅倉さん 弊社の設計チームは、経歴30年以上のベテランから新卒まで世代も経験も幅広いメンバーで構成しています。これまで設計のメンバーは外部研修をいくつか受講していましたが、出張の時間都合や会社予算もあり、各メンバーが順番に一人ずつ参加する、という形をとっていました。個々での学びは深まってよかったです、それらの学びを社内で共有する場をつくってこれなかった。今回はオンライン開催で、1社1画面であれば何人でも参加できることだったため、外部研修に初めて設計チーム全員で受講することができました。

毎月1回2日間の講座。1日目はまず

オンラインで飯塚さんの講義を6人全員で受け、その後全員で設計課題を行います。その後全員で社内コンペをおこなって最優秀に選ばれた1案をその日の夜に講座に提出。2日目は飯塚先生とゲスト講師のお二人から講評・添削をお願いする、という流れです。

受講されていかがでしたか？

浅倉さん これまで実践してきた設計手順と異なる、新しい設計手順を学べたことが大きな収穫でした。今でも「間取りから考えない」は設計チームの合言葉になっています。弊社では、施主の生活しやすさや機能性にとことん沿った設計を手掛けていきたい思いが強いため、反面としてどうしても外観デザインが整理できない。そこにもどかしさを感じていました。

間取りから考えず、構造や屋根から考えることで、顧客をうまくリードして外観デザインを洗練させ、それによって顧客の要望を超える付加価値を提供できる。一步先の洗練された設計デザインに向かっていく重要な突破口になるという手応えを感じました。

そのほかにも、屋外から見た窓の整理、室内のつまり、中間領域のつくり方なども、メンバーの意識が向くようになり、これまでとは違う視点やアイデアが生まれるようになりました。

関尾さん もう一つ大きな収穫は、発表・講評を通じて、他の受講工務店さんのプランや取り組みを見せてもらえたこと。受講者の



立地条件を活かし、近隣の緑を借景するべく、効果的な窓の使い方を行った

皆さんは、本業の合間に縫って参加し、時間をかけて渾身の課題プランを提出され、積極的に質問をされている。「このチャンスを掴んで何とか実力をつけたい」という貪欲さに非常に刺激を受けた。メンバーにとってもよい刺激になったと思います。

塾卒業後、設計チームの育成はどういうように続けていますか？

関尾さん やはりオンラインとはいえ、設計チーム全員での受講はメンバーの業務負担が大きかった。その後は全員強制参加での外部研修は行っていません。今後は社員が主体的に「もっと学びたい」という気持ちで臨んでもらえる機会を待ちたいと思います。そのためには生産性を高め、もっと余裕を持ってもらうことも必要だと考えています。

我々が受講した2020年当時は、コロナ禍の行動制限が厳しく、講師や他の受講生と直接交流できなかったことが残念だった。講師や他の受講者と対面で知り合うことができれば、もっと本音の話ができる、講義や発表講評も深い話ができる、お互いに刺激をもらえる。今後、リアルイベントなどの機会が持てるようなら、また工務店設計塾の再受講も検討したい。企画に期待します。



単調にならないように、目線を切りたい壁や落下防止柵にルーバーを用い、アクセントとした



若夫婦向けの34坪住宅。元々あった離れを解体し、南西の景色を取り込む広々とした空間を設計。天井高・棟高を下げ、外壁を杉板張りとしたことで風景にじむ



復習と実践の循環で、学びを最大に

お話を聞きした方

代表 鈴木 茂明さん

●ニコハウス設計室（愛知県豊橋市）

設立：2015年 社員：3人 年間棟数：新築6棟、リノベ1～2棟

愛知県豊橋市生まれ。専門学校で建築を学んだ後、造園会社に就職。（樹木と剪定）その間に二級建築士の資格を取得したのち、地元住宅会社に就職。一級建築士を取得し、10年目で独立。今年4月より設計者を採用し、社員3名で年間新築6棟を手がける。

塾に参加された経緯を教えてください

それまでほとんど我流でやってきており、設計手法を誰かに設計を学ぶ、という経験は一度もありませんでした。独立前に勤めていた地元建設会社時代に会社の諸先輩を見習ったり、独立後に雑誌を見て好きな住宅の図面を真似るぐらいでしょうか。

独立後、自分の設計で仕事がとれていましたので、何とか設計力を高めたいと感じていたというよりも、むしろ自分の設計が全国の設計者さんの中でどこまで通用するか、腕試しをしたいという気持ちの方が強かったと思います。

どのような印象や手応えを感じましたか？

初めて受講して、面食らったのは講義ですね。飯塚さんが常々忠告される「間取りから考えるな」という設計法を、当時の私はそのまま実践していて、架構や屋根形状から検討する発想が全くなかったので（笑）。毎回1日目の飯塚さんの講義は最初はすんなりとは理解できず、講義後にアーカイブ動画を何度も観直して、ようやく少しづつ内容を理解していました。

実物件の設計に変化がありましたか？

実はこの塾をきっかけに、自社仕様を飯塚さんと全く同じものに切り替えました。飯塚さんの設計手法が明快で、構造



2階のフリースペースは12畳。横に広がる連続窓からパノラマの景色を切り取る。2階中央にはトイレと収納を配置し、必要最小限の柱を上下にそろえる

躯体が非常にシンプルで端正であることが、他の建築家と違い「自分に合っている」という直感がありました。「この設計をとことん真似て、自分のものにしたい」という気持ちが湧き上がってきました。その日をきっかけに、次の物件から全てを飯塚式に切り替え、そこから現在まで2年半その工法を採用し続けています。

実物件の仕様を切り替えて実践されたそうで、具体的にどんなことを実践したのでしょうか？

飯塚先生の住宅は構造が非常にシンプルで端正だと感じ、これを自社に取り入れたいと思いました。講義で紹介される平面・立面・矩計図をもとに、天井高、棟高、構造、内外装仕上げ、造作、断熱・気密の部材構成まで、すべてを徹底的に真似る。飯塚先生の仕様がそのまま自社標準になっていくイメージです。

自分の中でもとくに大きな変化があったのは、構造と屋根です。当初は私も他の工務店さんと同様、住宅の平面図や立面図だけを作成し、それをプレカット工場に丸投げしていました。それでもプレカット工場は間取りに合わせて無理矢理でも、壁の配置、柱や梁の配置、基礎まで一通り図面を作ってもらえる。でもそれでは飯塚さんのようなシンプルな構造には到達できません。

今回を機に、構造計算ソフト「ホームズ君」を導入し、部材加工を依頼する流

れに切り替えました。本来あるべき流れですが、構造計算を内製化したことによくそれが実現できた、ということです。

構造計算をしながら、飯塚さんの設計に近づけていくと、1階と2階の柱直下

率をそろえたり、吹き抜けと階段と一緒に水平構面を確保したりと、その合理性がどんどん明らかになっていきます。またこれまで悩んでいた構造・断熱・気密・通気など複雑な要素がからまるおさまりが、一気に解消されました。

天井高を2100mmに下げたり、外壁材を無垢杉板に切り替えたことで、これまで見上げるような威圧感があった家が落ち着き、雰囲気がガラッと変わりました。顧客もその変化を感じてくれており、「いい雰囲気の家をつくっている」と評価が少しづつ浸透しつつある手応えを感じています。

継続的に受講された経緯を教えてください

自社標準仕様を飯塚仕様に切り替え、設計をはじめ、半年間の本編が終わる頃には、その物件がぼつぼつと着工、完成し始めた。図面で書いたことが実際の



1階はLDKで18畳。飯塚氏の標準仕様を再現するため、鈴木さん自身が構造計算に携わり、天井の構造梁は間隔と高さをそろえ、表情豊かな空間を生み出した

継続受講したもう一つの理由は、第2期ゲスト講師・関本竜太さんの存在です。関本さんのことは、設計ディテールが非常に精密なことで有名な建築家として知っていました。第1期で標準仕様を決めて構造・断熱・気密の迷いがなくなったことで、第2期の講義ではようやくデザインなどもう一つの視点について考える余裕が生まれていました。第1期を修了した頃には飯塚メソッドが身体に染み付いていたので、他の建築家さんを研究することで、そこからさらに何か別の視点が見えてくるのでは、という期待がありました。

受講される方に向けてアドバイスをいただけますか？

何よりもまず飯塚氏の工法をそのまま真似て採用してみることをおすすめします。これができると構造の問題がとてもスッキリするので、安心してその先のデザインやおさまりを深掘りできる。すべてを自分で独自に取り組むよりも、第一線で活躍されている建築家の仕様を真似て実践し、調整する。その中で自分独自の道を切り開いていく方が早いと思います。

会社の事情すぐには仕様を変えることはできないかもしれません。それでも学んだことをそのままにせず、少しでも自社物件で実践すること。それによって学べることがたくさんあるはずです。

特別講師

特別講師として建築家の丸山弾さんをお招きし、第1回と第6回では講義、全日程で飯塚さんとともに講評をいただきます。



丸山 弾 氏 丸山弾-スタジオ 代表

講義 第1回 (6/22) 建築を『ソト』から考える
敷地を知る、屋根と構造から考える、配置すべてが決まる

講評 第6回 (11/30) 建築を『ウチ』から考える
窓や光の話を中心に、実作を紹介する

毎回

1975年東京都生まれ。1998年成蹊大学卒業。2003年～2007年まで堀部安嗣建築設計事務所勤務のち、2007年丸山弾建築設計事務所設立。同年より京都芸術大学通信制大学院非常勤講師を務める。2014年東日本ハウスデザインコンペ最優秀賞受賞。著書に『木造住宅パーフェクト詳細図集』(オーム社)、『美しい住まいのしつらえ』(エクスナレッジ社)。

プラスワン講師

「プラスワン講義」では、注目の建築家や造園家、工務店、設計事務所の代表者をお招きし、最新の実践事例とその思いを熱く語っていただきます。魅力的な建築の世界との巡り合いをお楽しみください！



岸野 浩太 氏 夢・建築工房 代表取締役

講義 第2回 (7/13) ゆめけん式『エコハウス』最前線
G2標準時代の顧客提案・設計・施工までを紹介する

1975年北海道生まれ。大学卒業後、東京都内の設計事務所に勤務し共同住宅や事務所ビルなどの設計監理、分離発注(CM方式)にて住宅の設計施工を担当。2005年夢・建築工房入社、2013年より同社代表取締役。I級建築士。一般社団法人新木造住宅技術研究協議会(新住協)理事。著書に『エコハウス現場写真帖 最高の工務店が教える高断熱木造住宅の秘訣』、共著に『現場写真で学ぶ実施図面の描き方 増補改訂版』(エクスナレッジ社)、「初学者の建築講座 住宅の設計」(市ヶ谷出版社)。



日下 洋介 氏 Eee works一級建築士事務所 代表

講義 第3回 (8/17) 性能の先の『窓』を考える
高性能外皮を生かした新しい窓配置・ディテール、その周辺空間

1973年香川県生まれ。大阪のアトリエ事務所を経て独立。『住まい手の想いに寄り添い、納得いく予算で、浮かび上がるカタチを磨き上げる』がモットー。断熱・気密・耐震・耐久性など住まいの基本性能を担保した上で、性能の先の豊かさを求めて住まいづくりを行う。2022年「茨木の家」でエコハウスアワードアーバンデザイン賞受賞。「嵐山の家」で日本エコハウス大賞奨励賞受賞。



小林 賢二 氏 小林賢ニアトリエ 代表

講義 第4回 (9/14) 草木が生きる『庭』のつくり方
いま建築設計者に伝えたい「屋外空間」づくりの極意

1964年長野県上田市生まれ。1986年明治大学工学部建築学科(神代研究室)卒業。1989年桑沢デザイン研究所スペースデザイン科卒業。剣持デザイン研究所、苑環境計画勤務を経て、1993年小林賢ニアトリエ設立。関東・首都圏を中心に全国で設計事務所・工務店とともに住宅外構を手がける。書籍「緑と暮らす。」(エクスナレッジ社)で「庭づくりのコツ」を監修。



熊澤 安子 氏 熊澤安子建築設計室 代表

講義 第5回 (10/19) 『居心地』から考える住宅設計
実作を交え、普段何を考えて設計しているか舞台裏を語る

1971年奈良県生まれ。1995年大阪大学工学部建築工学科卒業。1996年～2000年DON工房一級建築事務所にて大野正博氏に師事。2000年遊住舎一級建築士事務所設立、2007年熊澤安子建築設計室に改名。著書に「詳細ディテールを読み解く 木造住宅のつくり方『朝霞の家』ができるまで」(オーム社)。

詳細内容

■開催日程

2023年6月22日～12月1日まで全6回／各回2日間。学んだことを反芻、理解する時間をつくるため、また業務に負担のかからない頻度を考え、月1回で開催。2日目の発表・講評では、自分だけでなく他の参加者のプランや添削・講評から、さらに大きな気付きや学びを得ていただけます。

第1回 | 6月22日(木)・23日(金) 第2回 | 7月13日(木)・14日(金) 第3回 | 8月17日(木)・18日(金)

第4回 | 9月14日(木)・15日(金) 第5回 | 10月19日(木)・20日(金) 第6回 | 11月30日(木)・12月1日(金)

■本塾のスキームと各回のイメージ

本塾では、基本的な考え方から具体的な課題とプラン作成・魅力を伝えるためのプレゼン、そして、添削・講評のプロセスを繰り返すことで、設計力はもとより、スピードや思考の幅、提案力など総合的にスキルの向上を目指します。



座学

豊富な建築事例をもとに、飯塚氏による設計手順を徹底解説

課題発表

毎回主題に合わせた設計課題を発表。回を重ねるごとに難易度アップ

1日目 終了後の課題

プラン作成

1日目講義終了後、3時間で各自課題プランを作成し提出

提出期限:1日目 21時まで



プレゼン

各自作成したプランを講師および参加者に発表

添削・講評

飯塚氏・丸山氏による各プラン添削・講評。他参加者の講評も学びに

※2日目終了後、講師を囲んでオンライン懇親会(任意参加、1時間予定)

■各回のテーマとプラスワン講義

第1回 ●6月22日(木)・23日(金)

プログラムと解法

プラスワン講義 建築を『ソト』から考える 敷地を知る、屋根と構造から考える、配置すべてが決まる

第2回 ●7月13日(木)・14日(金)

構造と断熱

7月15日(土): 神奈川県葉山町にてオプション視察 ※希望者のみ

プラスワン講義 ゆめけん式『エコハウス』最前線 G2標準時代の顧客提案・設計・施工までを紹介する

第3回 ●8月17日(木)・18日(金)

形態と窓

プラスワン講義 性能の先の『窓』を考える 高性能外皮を生かした新しい窓配置・ディテール、その周辺空間

第4回 ●9月14日(木)・15日(金)

空間と光

プラスワン講義 草木が生きる『庭』のつくり方 いま建築設計者に伝えたい「屋外空間」づくりの極意

第5回 ●10月19日(木)・20日(金)

機能と収納

プラスワン講義 『居心地』から考える住宅設計 実作を交え、普段何を考えて設計しているか舞台裏を語る

第6回 ●11月30日(木)・12月1日(金)

素材とディテール

プラスワン講義 建築を『ウチ』から考える 窓や光の話を中心に、実作を紹介する

■受講方法 オンライン ■参加費 1社 33万円(税込) ■定員 30社

■参加資格 定期購読者限定 ※新建ハウジング未購読の方は、定期購読契約(1年間)をお願いしております。

■アーカイブ視聴 あり ※第6回終了後、6ヶ月先まで、全ての回の見逃し配信がご視聴いただけます。

お申し込みはコチラ



新建ハウジング 工務店設計塾 